

教育のつどい大阪2018

〈全体会〉

10月20日(土)

13:30開会

サンスクエア堺

(JR堺市駅より徒歩3分)

安田 菜津紀 さん

ファインダー越しに見た

世界の子どもたち



早くから外国語をやれば 効果がある？

無理難題の小学校英語
でも、どうする③

英語と日本語の
発音は
全く違う

近年の研究成果を一つだけ紹介すると、外国語を早くからやって効果があると言われるには、まず指導者の質が大事です。
教える先生方が外国語教育に熟達していることが重要なのです。
特に低年齢の場合は、音声、つまり発音が大事です。ところが、英語と日本語の音声は全く違うので、発音は、日本人が一番苦手にしているところです。

学習には年間
一五〇〇～
二〇〇〇時間
必要



それに加えて学習する時間数が重要です。

小学生は文法を学んで、理論的に英語の構文を理解することはできないので、大量のインプットがないと外国語が入っていきません。どれくらい大量かというと、年間1500時間から2000時間ぐらい学べば、中学・高校まで効果が持続するという研究が主流です。

一ケタ違う
時間数

ところが、日本の場合、先生のトレーニングはほとんどしていません。

また時間数も、小3から週1時間入れて、小5・小

日本語は
二万時間

日本人が小学校に入学するまでに一通り日本語が喋れたとします。

そのときまでにどれくらいの日本語のインプットが

大阪では、この5年間に「定員割れ」を理由に6つの府立高校が募集停止・廃校にされました。「池田北、西淀川、咲洲、大正、柏原北、長野北」
背景には、「3年連続定員に満たなければ再編整備」という府立学校条例があります。
しかし、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」に「ゆとり」があるのは当たり前です。
それを理由に高校をつぶすなどの異常な対応は、他の都

公立高校の「定員」は「ゆとり」があって当たり前

道府県にはありません。
対象校は、それぞれ地域の子どもたちを受け入れ大切な役割を果たしてきた高校ばかりです。
そのため、広範な府民から「大切な高校をなくさないで」と声が上がり、地域ぐるみで反対署名はのべ11万筆を超えました。
子どもたちに過酷な受験競争を強い、「不合格者」を出さなければ廃校にするという、高校を競わせる理不尽な府立学校条例は抜本的に見直すべきです。

あるかという、だいたい1万5000時間から2万時間あります。

だから文法を学ばなくても日本語が身に付くのです。ところが、わずかな時間しかない場合は、文法などをやらないと、効率が悪くて身につかないわけです。

ですから、近年の研究から見て、年間160時間程度やっても、ほとんど全く力にはならないと言っているでしょう。(つづく)

和歌山大学教育学部・英語教育

江利川 春雄

「教育要求書」に基づく

高石市教委交渉

11月22日(木)

ご参加下さい

泉北教組に加入して子どもと教育を守ろう！